

お茶の水女子大学附属高等学校アフガンボランティア部

気仙沼・南三陸被災地研修記

②

日程・2015年12月12日～13日

被災した方のお話を聞いて

1年 丸山 佳那子

私は高校のボランティア部で宮城県気仙沼市を訪れた。震災について学ぶ中で、被災された方から直接伺ったお話が心に残っている。

震災後、住民の中にはやむを得ず、市外に移住する人たちが少なくないそうである。そんな中、お話をしてくださった女性は今でも気仙沼でひとり暮らしをしている。娘さんから「仙台で一緒に暮らそう」と誘われてもそうしなかったのは、「みんなの故郷

になりたい」という強い思いがあったからだそうだ。自分が語っていた。

いることで家を離れて暮らす娘や震災後に気仙沼を離れた人が、帰ってきたときにいつか戻れるように、と



南三陸さんさん商店街を視察

実際に被災した方から聞くお話は、ひとつひとつの言葉から震災当時や震災後の様子が伝わってくる気がして、重みを感じた。自分自身も被災しているのに「みんなの故郷になりたい」と語る様子はとても強く感じられたが、気仙沼を離れないという決断は簡単なものではなく、多くの苦勞と困難があったのだということも感じられた。

「南三陸の土を踏んでこそ」

1年 都築 萌香

私は南三陸津川地区の仮設商店街である「南三陸さんさん商店街」を訪れました。来る途中や商店街の周りでは工事の車が多く入り、かさ上げ工事が行われ

ていました。震災後、工事は日常茶飯事となっていて、現地の方から聞き、テレビで見たり新聞で読んでいたりして、復興は進んでいるのだなと安易に考えていた

実際に被災地を訪れて、震災と津波が気仙沼を大きく変えてしまったということ、その中で故郷のために力になるうとしていて人がいることを改めて知った。

私にできることは少ないかもしれないが、少しでも震災を経験した方々の役に立てるよう、私にできることを見つけていきたい。

【スケジュール】

- 1日目
 - ・南三陸町仮設商店街、モアイ像、旧防災庁舎等見学
 - ・気仙沼向洋高校～地福寺墓地等海岸線(日没前)
 - ・唐桑半島へ～唐桑町宿舎つなかん泊
- 2日目
 - ・気仙沼市教育委員会前(車内にて) 宮城教育大学教育復興支援センター気仙沼事務所 茂木 ゆみ子さん講話
 - ・気仙沼市青少年育成センター海原航太さん合流の上案内開始
 - ・リアスアーク美術館見学、プラザホテル屋上より展望
 - ・昼食(気仙沼「海の市」)
 - ・シャークミュージアム見学
 - ・気仙沼魚市場・漁港 見学

自分を情けなく思いました。

イースター島から贈られたというモアイ像を背に商店街へ足を踏み入れると、キラキラ丼やオクトパス君など南三陸の様々な店が軒を連ねていました。地元の人の中に高校生の姿を見つけ、自分と同じ高校生もここ南三陸で頑張っているのだと改めて気づきました。私たちにでき

ることは現状を伝えることです。実際に来てみると気づかないこと、分らないことはたくさんあります。

私は今回の視察で見たこと、聞いたことに、感じたことを胸に刻むだけでなく、「未来に生きる」を意味するモアイのように、前向きに進んでいる南三陸の今を様々な人に伝えていきたいです。